

ゴミ処理施設 CI

社名 Clean Corporation

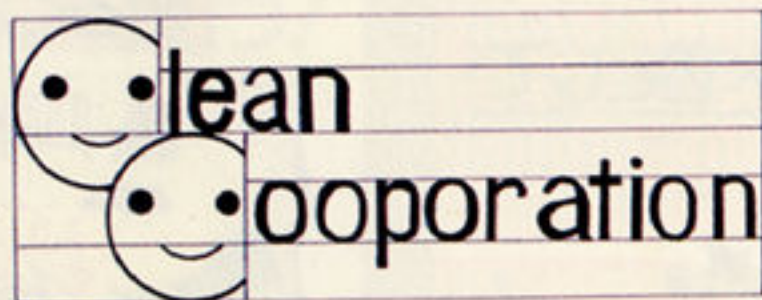
Clean・・・清掃

Corporation・・・協力する。力を合わせる

まさに「縁の下の力持ち」のゴミ処理施設の存在をもっとアピールするために、私たちは架空の会社を想定して私たちなりのゴミ処理会社を作ってみました。人々がもっと親しめるような、そこで働く人達がその仕事に誇りを持てるような、そんな新しいゴミ処理場をイメージしました。

ロゴタイプ

lean
ooperation

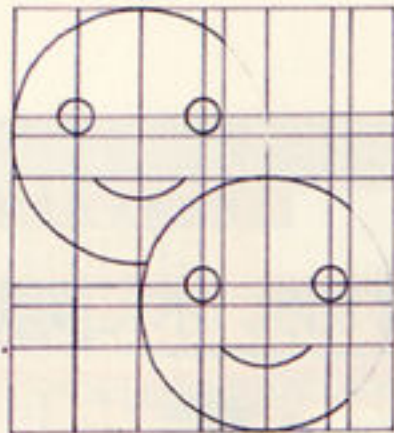
lean
ooperation

コーポレートカラー



火 地 水

シンボルマーク



ごみ袋・ごみ箱

ごみ袋



ごみ箱

ほうき

ほとんどのゴミ袋・ゴミ箱には「もえるゴミ」「もえないゴミ」ときされていますが、そうになるとビニールなども「もえるゴミ」にはいってしまうため、困惑してしまう人も多いと思い、「もやしてもいいゴミ」と「もやしてはいけないゴミ」とに分けてみました。ゴミ袋は中が見えるように半透明にし、袋の口を縛るためのテープをつけました。どんな人でも目でわかるようにしたかったので、色を区別し、マークも自分たちで考えました。

ゴミを収集しに来た清掃員の人
が、収集所でイヌ、ネコ、カラスなどが荒した跡をきれいにするためのホウキです。



ゴミ収集車・作業服

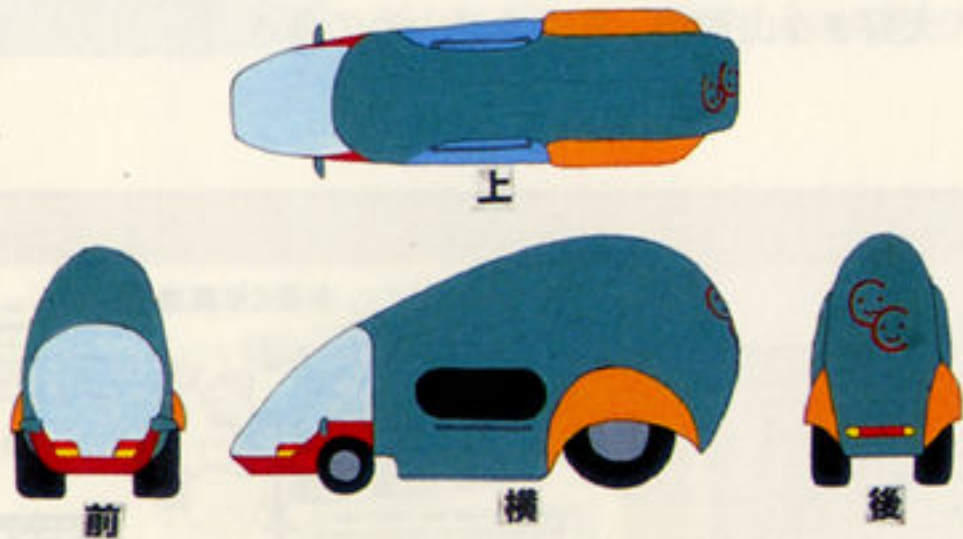
帽子



作業服



ゴミ収集車



見ていて見苦しくない、動きやすいということを考えてみました。駐車中に他の車の邪魔にならないように横幅を狭くし、全体で未来を感じさせるようにしました。作業服は動きやすいオーバーオールとし、シンプルに仕上げました。色はコーポレートカラーをふんだんに使い、街の環境を損なわないように、青緑(水)を多量に使用しました。

壁にペイントする

現在使われているゴミ処理施設は私たちの生活に欠かせないものでありながら、人々の目にあまり触れない所にあります。ですから、親しみを持ってもらうためにアート感覚で描いてみました。



まとめ

この作品を制作しているうちにゴミの処理に対する関心が高まり、今まで気にもとめていなかった部分が見えてきました。このアイデアが現実のものとなればいいなと思いました。